

連合会だより

連合会と国土交通省の意見交換会

全国土木施工管理技士会連合会（小林会長）は、平成21年11月27日、東京都千代田区霞が関ビル35階「朝日の間」で国土交通省との意見交換会を開催した。当日は、甲村技監、下保官房技術審議官、藤森総合政策局技術参事官他幹部が出席された。甲村技監は、「品質を守るのは技士の能力にかかっている分が多く、技士の地位工場やしっかりした企業が地域に残れるようにすることは必要」と述べられた。

全国土木施工管理技士会連合会からⅠ．技士の技術力・社会的地位の向上、Ⅱ．現場の施工管理改善の2点について提案した。また、『土木施工管理技士に関するアンケート調査（現場技術者の声）』の09年度報告書を提示し改善されつつあるとはいえ、いまだ提出書類の簡素化問題や発注者側の不備を指摘する声があることを説明した。意見交換会では、全国土木施工管理技士会連合会から、技士の技術力・社会的工場として①1、2級土木施工管理技士の適正評価として一定規模以上の工事の主任技

術者は有資格施工管理技士に限定することを求めたほか、優秀な人材の早期資格取得チャンスを理由に、現行2級資格者の1級試験資格要件である2級取得後5年を2年に短縮することを提案した。②公共工事で受注者側技術者に義務付けられている施工管理技士資格についても、現場協議で技術的理解が得にくい場合があるとして、発注者側技術者や監督補助員の資格取得と継続教育義務付を求めた。一方、現場施工管理の改善では、設計変更について、設計変更審査会などに提出する変更図面などの資料を誰が作成するか手順がはっきりしない場合があるとして、資料作成手順の明確化を地方整備局の設計変更ガイドラインに盛り込むことを提案した。



写真－1 意見交換会
（挨拶：小林会長）



写真－2 意見交換会
（挨拶：甲村技監）